

令和8年9月28日

桑名市議会議長 倉田 明子 様

都市経済委員会
委員長 渡辺 仁美

都市経済委員会調査研究報告書

都市経済委員会における所管事務調査について、下記のとおり調査研究結果を御報告します。

記

1 調査研究事項

トイレの整備について

2 調査研究理由

世界では清潔で快適であることが高く評価される日本のトイレだが、公園など屋外の公共トイレとなると状況が異なってくる。自治体や業界団体が実施した複数のアンケート調査からは、多くの人が屋外の公共トイレについて、いわゆる3K「汚い・臭い・暗い」といったネガティブなイメージを抱いていることが分かる。実際、本市の利用頻度が高いと思われるトイレをいくつか回ってみたところ、程度の差こそあるものの、老朽化の進行や衛生面、防犯面等における様々な課題が見受けられた。

近年、公共トイレに対する関心の高まりとともに、こうした3Kの課題を改善し、きれいで快適なトイレを目指そうとする動きが全国に広がりつつある。清潔で安全かつ多機能なトイレがあることで、高齢者、障害者、小さな子ども連れの方など、誰もが外出しやすくなり、外出先でも安心して過ごすことができるからだ。今やトイレは単なる排泄の設備ではなく、人々の健康、尊厳、外出の自由を支える身近な社会インフラの一つであり、訪れた観光客の満足度、滞在時間、まちのイメージを左右する重要な要素ともなっている。

そうしたことから、今後、財源が限られる中で、誰もが安心して快適に使えるトイレ環境をどのように整備し、維持していくかを課題として捉え、「トイレの整備について」をテーマとして、調査研究を行うこととした。

3 調査研究経緯

実施年月日	主な協議事項
令和8年 3月 6日	調査研究事項の検討
令和8年 4月 8日	ヒアリング事項の協議
令和8年 4月27日	現状確認（執行部へのヒアリング、市内現地確認）
令和8年 5月20日	課題の整理、調査研究方法等の検討
令和8年 6月 2日	全員協議会にて中間報告
令和8年 6月24日	行政視察先の決定
令和8年 7月22日	行政視察（新横浜駅北口公衆トイレ・東京都八王子市）
令和8年 7月23日	行政視察（千葉県千葉市・渋谷区 THE TOKYO TOILET）
令和8年 8月 4日	政策提言の骨子の整理
令和8年 8月19日	政策提言に向けた具体的な内容の協議
令和8年 8月24日	全員協議会にて中間報告
令和8年 9月15日	政策提言案の協議、委員会調査研究報告書の調整
令和8年 9月28日	全員協議会にて調査研究結果の報告

4 調査研究概要

(1) 行政視察の実施

① 東京都八王子市

公共トイレの改善を単なる設備更新ではなく、周辺環境の価値を高め、「回遊・滞留の場づくり」を推進するまちづくりの戦略の一つとして位置づけた「八王子市中心市街地公共トイレ環境づくり基本方針」について視察し、民間事業者や市民、利用者を含む地域全体で快適な公共トイレ環境の実現を目指す取組について伺った。

② 千葉県千葉市

公園トイレの3Kの現状を、限られた財源の中で効率よく改善するため策定された「千葉市公園トイレ快適化計画」について視察し、設備の状況や利用頻度などの確に現状把握を行ったうえで、ハード・ソフト両面からの堅実な対策を実施し、公園トイレにおける品質の確保を図る取組について伺った。

③ 新横浜駅北口公衆トイレ・渋谷区公共トイレ「THE TOKYO TOILET」

新横浜駅北口公衆トイレは、トイレの総合メンテナンス事業を行っている会社が、ネーミングライツの対価として、清掃や消臭器の設置等役務を提供しており、人通りが多い立地であるが、概ね清潔に保たれていた。渋谷区の「THE TOKYO TOILET」は、ユニバーサルデザインを踏まえつつ、一見してトイレとは思えない斬新なデザインが魅力的であったが、8箇所巡った中では、使用者のマナーの重要性に気づかされる場面もあった。

(2) 調査研究結果（まとめ）

近年、公共トイレは、地域の重要な公共インフラとして認識されつつあるが、屋外の公共トイレについては、誰もが快適に使用できると言い難い状況にある。本市においては未だに和式が主流であり、オストメイトなどユニバーサルな設備も不足しており、昼間でも薄暗く、中には男女が分けられていないトイレも複数存在している。

市民や桑名市を訪れた観光客など、年齢や性別、障害の有無、使用言語に関わらず、誰もが安心して快適に使用できるトイレ環境をどのように実現し維持していくか、財源が限られる中で効率的かつ効果的な取組が必要と考える。

そこで、当委員会では、公共トイレを安心快適なまちづくりの重要な要素として位置づけ、地域全体でトイレ環境の向上に取り組む八王子市と、トイレ設備の現状や市民のニーズを的確に把握し、中長期的な計画の下、トイレ環境の改善に取り組む千葉市を視察した。また、その視察の途上では、ネーミングライツによりトイレ診断や清掃等役務の提供を受けて管理されている新横浜駅北口公衆トイレと、インクルーシブな社会づくりを目的として著名なクリエイターによりデザインされた渋谷区の「THE TOKYO TOILET」も視察した。

その後、政策提言に向け、各委員が考えた具体的な提言案を基に委員間で協議を重ねた結果、当委員会として、誰もが快適に利用できるトイレ環境の実現を図るため、①公共トイレ管理計画の策定、②快適なトイレ環境の整備に向けた取組、③快適なトイレ環境の維持に向けた取組の3点を軸に提言することとした。

5 政策提言

【トイレの整備について】

世界では清潔で快適であることが高く評価される日本のトイレだが、公園など屋外の公共トイレとなると状況が異なってくる。自治体や業界団体が実施した複数のアンケート調査からは、多くの人が屋外の公共トイレについて、いわゆる3K「汚い・臭い・暗い」といったネガティブなイメージを抱いていることが分かる。実際、本市の利用頻度が高いと思われるトイレをいくつか回ってみたところ、程度の差こそあるものの、老朽化の進行や衛生面、防犯面等における様々な課題が見受けられた。

近年、公共トイレに対する関心の高まりとともに、こうした3Kの課題を解決しようとする動きが全国に広がりつつある。性別、年齢、障害を問わず、誰もが快適に使えるトイレ環境は、市民に安心して外出できる機会を提供し、観光客をもてなし、まちの印象や価値を高めるなど、多方面に波及効果をもたらす。もはやトイレは単なる排泄の設備ではなく、まちづくりに欠かせない社会インフラの一つに位置づけられており、本市においても公園や駅前等に設置された公共トイレの改善は喫緊の課題と考えられる。

以上のことから、誰もが快適に利用できるトイレ環境の実現を図る上で参考となるよう、以下の3点の事項について提言する。

① 公共トイレ管理計画の策定

公園、駅前等に設置された公共トイレの環境を効率的かつ計画的に改善し、快適な環境を維持していくため、管理計画の策定に取り組まれない。

計画の策定に当たっては、対象のトイレを管理する部署において庁内横断的にデータを共有し、現況を把握したうえで、利用実態調査やアンケートなどを実施し、ニーズに応じた効果的な改修や維持管理を実施できるよう、基本方針を定められたい。

また、計画の効果を検証するため、利用者満足度、苦情件数など、数値目標の設定も併せて検討されたい。

② 快適なトイレ環境の整備に向けた取組

市民や観光客など、多数の利用が見込まれる駅前や公園のトイレについて、優先的に改修、建て替えを検討されたい。

トイレの整備にあたっては、先進地事例を参考に、誰もが安心して快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインを取り入れ、洋式トイレ、乾式清掃の床材といった衛生的でメンテナンスのしやすい設備を採用されたい。

また、照明のLED化は、防犯及び省エネに効果的であることから、積極的に推進されたい。

③ 快適なトイレ環境の維持に向けた取組

衛生環境の向上のため、利用頻度に応じた清掃回数の見直しや特別清掃の実施、清掃基準の設定を検討されたい。

加えて、多言語表記やピクトグラムの活用など汚されにくい対策を講じるとともに、ト

イレの汚損などを見つけた際にすぐに通報してもらえよう、見やすい場所に連絡先を表示されたい。

また、トイレ利用者のマナー向上は、トイレ設備の汚損や破損を防ぎ、適切な状態を保持する効果が見込めることから、衛生面の改善だけでなく、維持管理コストの削減にもつながると考えられる。事業者による地域貢献型の協賛・協力による維持管理や、市民との協働、情報発信など、公共トイレに関心を持ち、地域で快適に保っていく意識を醸成する環境づくりに取り組まれない。